

令和5年度 学力向上指導改善プラン

三田小学校長 足立 延也

学校教育目標		4月		2～3月	
推進主体		学力向上に向けての重点的な目標	成果となる目標	具体的な行動目標	年度末評価
学力に関する前年度の状況・経年の課題等		(指標となる数値等)	(成果目標達成のための具体的な手立て等)	(今年度の成果と来年度に向けた課題等)	評価
学 力 の 状 況	<p><b>国語</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○我が国の言語文化に関する事項では、正答率が68.8%(全国77.9%)で、全国平均を10.9ポイント上回っている。</li> <li>○話す・聞くの領域では、平均正答率77.6%(全国で68.2%)で、全国平均より11.4ポイント上回っている。</li> <li>○理由を付けて自分の意見を書き表わすことができる児童が増加した。</li> <li>◆書くこと「読むこと」の領域では、問題の無回答率が高く、課題が見られる。</li> <li>◆漢字の正答率に課題が見られ、無回答率も高い。</li> <li>&lt;指導上の課題&gt;</li> <li>○学級会などの話し合い活動を充実させ、自分の考えを理由をつけて話す力をさらに向上させる。</li> <li>◆具体的複数の叙述をもとに、内容だけでなく、文章構成にも着目して読み、文の全体を捉える力をつける。</li> <li>◆ワーキングメモリーを高め、自分の考えを整理したり、取捨選択して正確に読み取る力をつける。</li> <li>◆漢字を文や文章の中で積極的に用いるよう指導を工夫する。</li> <li>◆漢字指導や作文指導の中でさまざまな言葉に触れるような指導をしていく。</li> <li>◆書いた文章を推敲することで、漢字の間違いや文意が明確に伝わらぬかどうかに自分で気づく力をつける。</li> </ul>	<p><b>基礎基本の定着と思考力・表現力の育成</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○学期末の漢字まよめテストで8割以上の定着を目指す。</li> <li>○算数科での数と計算領域での正答率において、全国平均を上回る。</li> <li>○全国学力状況調査における無回答率を減らす。</li> <li>○学校評価での基礎基本に関する項目で肯定的評価90%以上を目指す</li> <li>※92%(保護者)89%(児童)88%(職員)</li> <li>○年度末の学校評価、保護者アンケートで家庭学習に関する項目での肯定的評価70%以上をめざす。</li> <li>※90%(保護者)82%(児童)</li> <li>○学校評価、児童アンケートにおいて、道徳授業に関する項目において、肯定的評価90%以上を目指す</li> <li>※87%(児童)97%(職員)</li> <li>○学校評価、保護者アンケートの地域連携に関する項目での肯定的評価70%以上を目指す。</li> <li>※86%(保護者)91%(児童)</li> <li>○学校評価、保護者アンケートの苦手なことに関する項目での肯定的評価90%以上を目指す。</li> <li>※87%(保護者)92%(児童)</li> </ul>	<p>読む・書く力の向上</p> <p>ア)新出漢字の定着のための指導法の工夫</p> <p>イ)語彙を増やす指導の工夫</p> <p>ウ)文章を書く機会の充実と文章力向上に結び付ける指導の工夫</p> <p>エ)読書習慣の確立</p> <p>四則計算の定着</p> <p>オ)繰り返し復習できる計算学習システムの確立</p> <p>自ら学ぶ意欲の向上</p> <p>カ)全ての児童が意欲をもつことができる指導の工夫</p> <p>キ)正確に題意把握できる力</p> <p>ク)振り返りのスタンダード化</p> <p>ケ)視覚支援を有効に使った授業づくり</p> <p>表現力の伸長を図り、協同に学ぶ力や課題解決に向かう思考力を高める</p> <p>コ)一人ひとりが自分の考えをもち、発言できる機会の充実</p> <p>サ)ICTを活用した考えや成果物の共有</p> <p>個に応じた支援と個別指導の充実</p> <p>シ)学習時間・放課後学習・給食準備時間等の活用による個別支援</p> <p>ス)教員間、ボランティアとの連携</p> <p>セ)達成感を神らぬ指導による学習意欲の向上と基礎学力の定着</p> <p>ソ)算数科少人数授業における習熟度別学習</p> <p>生活習慣</p> <p>ア)あいさつ指導の工夫</p> <p>イ)集中して清掃活動に取り組む指導の工夫</p> <p>ウ)廊下の歩き方に対する指導の工夫</p> <p>エ)工場に応じた言葉遣いの指導</p> <p>オ)いじめ、不登校の未然防止</p> <p>カ)迅速な情報共有による早期発見、早期対応</p> <p>キ)生活アンケートはじめアンケートを中心とした理解理解</p> <p>ク)教育相談の実施</p> <p>ク)学習の見通しや目標を明確にして学習する習慣の確立</p> <p>カ)低学年の家庭学習の習慣や高学年の自主学習の習慣の定着を図る</p> <p>キ)「三田小自主学習の手引き」の活用</p> <p>ク)自コンピュータや学習ノート展示コーナーの設置などの工夫</p> <p>ケ)系統立てた自主学習の取り組みと徹底</p> <p>道徳的価値への意識の向上と学びを日常生活と結びつけられる教育活動の実践</p> <p>◆道徳の授業を核として学校全体の道徳教育の推進計画を策定する</p> <p>課題教育に対しての校内研修の充実</p> <p>◆人材教育・特別支援教育・特別活動・キャリア教育・情報教育(プログラミング教育)</p> <p>地域連携の充実</p> <p>ア)学校地域連携協議会の計画的な実施と外部評価の活用</p> <p>イ)地域の教育者が学校支援ボランティアの積極的な活用</p> <p>ウ)地域、家庭への情報発信(HP)の定期的な更新、学年通信の配信等)</p> <p>八景中学校区「学びのスタンダード」の徹底</p> <p>エ)学習規律の徹底</p> <p>目標に向かって粘り強く取り組む心身の育成</p> <p>オ)進ん「自學、とどろく讀書」、元氣「運動」</p> <p>ウ)児童が主体的に取り組む、つながりを感じられる特別活動の充実</p> <p>◆目標をもって学習に取り組む機会の設定</p> <p>ウ)家庭との連携</p> <p>保幼小中高交流を計画的に行い、校種間の円滑な接続を図る。</p>	<p>○経年の課題であった、記述式の正答率が大幅に上がり、自分の考えや式の意味を自分の言葉で説明できる力が定着しつつある。</p> <p>◆正答率ごとの人数分布では、学力の定着度が二極化しており、学習支援を必要とする児童が一定数いる。</p> <p>◆前期領域の基本知識はよく理解しているが、基礎知識の定着が十分と云えない単元もある。</p> <p>◆問題場面をよく読み、意味を理解して、知識を活用すること課題がある。</p> <p>◆割合の問題では、県や全国正答率と大きな差はないものの、正答率は22パーセントと低く、割合が表す意味の理解が十分とは言えない。</p> <p>&lt;指導上の課題&gt;</p> <p>○自分の考えを整理し、説明したりする時間を大切に、協同的な学びを継続して進めていく。</p> <p>○聴の学習タイム、循環学習タイム、個別指導などにおいて、個に応じた支援を積み重ね、基本学力の定着を図る。</p> <p>◆前学習の時間やICT機器を効果的に活用し、既習事項の復習を反復することで、基礎基本の定着を図る。</p> <p>◆問題文をじっくりと読み、大切な言葉に下線を引いたりして、問題の意図を正確に読み取る力をつける。</p> <p>◆算数的活動を積極的に取り入れ、学習内容を生活と結び付けて捉えさせるなど、実感を伴った理解につなげる。</p> <p>○スマートフォンやタブレットについて、各家庭で決めたルールを「守っていない」値が0であり、決めたルールを確実に守っている。</p> <p>◆学校のタブレット使用に関しては、どの質問においても全国より使用率が大きく下がっている。また、家庭での学習目的でのタブレットの使用率も低く、情報活用能力の低下が危惧される。しかし、役に立つと考えている児童の割合はともども、今後前向きに使用していくことが望まれる。</p> <p>&lt;課題に対する取組の具体&gt;</p> <p>●授業時におけるICTの積極的活用は必須、Google、ミライシードなどを活用し、子ども達に情報活用能力が身につくように指導していく。</p> <p>◆基本的な漢字や計算の力が定着していない児童がいる。</p> <p>◆文章や問題を正確に読みとらぬこと課題がある。</p> <p>◆教科書内容を準拠した誰かメソッドはできるが、数値や条件、問われ方が変わるとできなくなるなど、活用力に課題がある。</p> <p>◆応用問題では、順序立てて考えることに課題がある。</p> <p>◆学習意欲は理解しているも、時間が経過すると忘れてしまっているなど、基礎知識が定着しにくい状況が見られる。</p> <p>◆自分の考えを他者に分かりやすく伝えるための語彙力や、語力が十分身につけていない児童がいる。</p> <p>◆課題に取り組むはじめは、途中であきらめ、最後まで粘り強く考え抜くことが苦手な児童もいる。</p> <p>◆全ての児童が学ぶ意欲をもつことのできるユニバーサルな視点での学習支援(教室環境、資料提示の仕方、教材・教具の工夫など)のより一層の充実が必要である。</p>	
	<p><b>算数・数学</b></p> <p>○経年の課題であった、記述式の正答率が大幅に上がり、自分の考えや式の意味を自分の言葉で説明できる力が定着しつつある。</p> <p>◆正答率ごとの人数分布では、学力の定着度が二極化しており、学習支援を必要とする児童が一定数いる。</p> <p>◆前期領域の基本知識はよく理解しているが、基礎知識の定着が十分と云えない単元もある。</p> <p>◆問題場面をよく読み、意味を理解して、知識を活用すること課題がある。</p> <p>◆割合の問題では、県や全国正答率と大きな差はないものの、正答率は22パーセントと低く、割合が表す意味の理解が十分とは言えない。</p> <p>&lt;指導上の課題&gt;</p> <p>○自分の考えを整理し、説明したりする時間を大切に、協同的な学びを継続して進めていく。</p> <p>○聴の学習タイム、循環学習タイム、個別指導などにおいて、個に応じた支援を積み重ね、基本学力の定着を図る。</p> <p>◆前学習の時間やICT機器を効果的に活用し、既習事項の復習を反復することで、基礎基本の定着を図る。</p> <p>◆問題文をじっくりと読み、大切な言葉に下線を引いたりして、問題の意図を正確に読み取る力をつける。</p> <p>◆算数的活動を積極的に取り入れ、学習内容を生活と結び付けて捉えさせるなど、実感を伴った理解につなげる。</p>				
	<p><b>ICT機器を効果的に活用した取組状況</b></p> <p>○スマートフォンやタブレットについて、各家庭で決めたルールを「守っていない」値が0であり、決めたルールを確実に守っている。</p> <p>◆学校のタブレット使用に関しては、どの質問においても全国より使用率が大きく下がっている。また、家庭での学習目的でのタブレットの使用率も低く、情報活用能力の低下が危惧される。しかし、役に立つと考えている児童の割合はともども、今後前向きに使用していくことが望まれる。</p> <p>&lt;課題に対する取組の具体&gt;</p> <p>●授業時におけるICTの積極的活用は必須、Google、ミライシードなどを活用し、子ども達に情報活用能力が身につくように指導していく。</p>				
	<p><b>定期テスト、単元テストなどによる状況(各教科)</b></p> <p>◆基本的な漢字や計算の力が定着していない児童がいる。</p> <p>◆文章や問題を正確に読みとらぬこと課題がある。</p> <p>◆教科書内容を準拠した誰かメソッドはできるが、数値や条件、問われ方が変わるとできなくなるなど、活用力に課題がある。</p> <p>◆応用問題では、順序立てて考えることに課題がある。</p> <p>◆学習意欲は理解しているも、時間が経過すると忘れてしまっているなど、基礎知識が定着しにくい状況が見られる。</p>				
<p><b>授業等からうかがえる状況(各教科)</b></p> <p>◆自分の考えを他者に分かりやすく伝えるための語彙力や、語力が十分身につけていない児童がいる。</p> <p>◆課題に取り組むはじめは、途中であきらめ、最後まで粘り強く考え抜くことが苦手な児童もいる。</p> <p>◆全ての児童が学ぶ意欲をもつことのできるユニバーサルな視点での学習支援(教室環境、資料提示の仕方、教材・教具の工夫など)のより一層の充実が必要である。</p>					
<p><b>学 力 向 上 に 関 連 する 学 習 意 欲 等 の 学 習 意 欲 等 の 学 習 意 欲</b></p> <p>○挨拶に関しては、児童、保護者、職員すべてにおいて数値が下がっている。昨年度は一学期に児童会主催で挨拶運動に取り組んだ。その成果として、前期は前向きに挨拶している児童が増えたが、その取り組みが終わると少しずつ挨拶に対する意欲が落ちてきているように感じた。自分たちで決めたことに対しては前向きに取り組むことができるが、挨拶に関しては定着していないように感じられる。</p> <p>○児童自身も自分から進んで挨拶をしている(割合が高くなっている。しかし、まだまだ掃除中に関係のない話をしていたり、担当している場所を離れたりしている児童がいる。「自分で汚れを見つけて掃除すること」や、「周りの手伝いをすること」に関してはまだまだ指導が必要だと感じられる。</p> <p>○飲食の設計上、廊下を走ってまわ児童が多かったが、児童会主体で「三田小walkingman作戦」といった取り組みにより、多少軽減されたように感じる。</p> <p>○授業中と休み時間の言葉遣いの違いや、職員室に入る時の言葉遣いなどの定着が不十分である。さらに、最近SNSでの悪口やきつ口調でのトラブルをよく耳にする。携帯・スマホの所持率が上がってきていることともあるため、正しい使い方やSNS等の問題について、3年以上にわたって講習会を考慮している。</p> <p>○児童理解に関しては、職員と児童の肯定的評価と保護者の肯定的評価に差がある。学年によっては、普段から子どもの考えや気持ちを引き出すために交換日記などを行っている学年もある。</p> <p>◆学習の見通しや目標を明確にして主体的に家庭学習を行う習慣の確立に向けて、段階的に継続的に指導していくことが必要である。</p>	<p><b>○生活習慣、学習習慣の改善・確立を目指す</b></p> <p>○学校評価、児童アンケートのあいさつ項目で肯定的評価85%以上を目指す</p> <p>※81%(保護者)82%(児童)</p> <p>○年度末の学校評価、保護者アンケートで家庭学習に関する項目での肯定的評価70%以上をめざす。</p> <p>※90%(保護者)82%(児童)</p>	<p>生活習慣</p> <p>ア)あいさつ指導の工夫</p> <p>イ)集中して清掃活動に取り組む指導の工夫</p> <p>ウ)廊下の歩き方に対する指導の工夫</p> <p>エ)工場に応じた言葉遣いの指導</p> <p>オ)いじめ、不登校の未然防止</p> <p>カ)迅速な情報共有による早期発見、早期対応</p> <p>キ)生活アンケートはじめアンケートを中心とした理解理解</p> <p>ク)教育相談の実施</p> <p>ク)学習の見通しや目標を明確にして学習する習慣の確立</p> <p>カ)低学年の家庭学習の習慣や高学年の自主学習の習慣の定着を図る</p> <p>キ)「三田小自主学習の手引き」の活用</p> <p>ク)自コンピュータや学習ノート展示コーナーの設置などの工夫</p> <p>ケ)系統立てた自主学習の取り組みと徹底</p>			
<p><b>校 内 研 究 の 状 況</b></p> <p>○これまで「特活」に取り組んできたこと、より効果的に生かすため「道徳」の研究に取り組んでいる。豊かな人間性を育む道徳教育の推進～自己を見つめ、お互いを認め合い、よりよく生きようとする子どもの育成～をテーマに、子どもたちの道徳的価値感や生き方の中で生かそうとする実践力を育てていく必要がある。</p> <p>○人権研修、特別活動、特別支援教育、国際理解教育などの校内研修会を定期的に行っているが、学年や単元に応じてまだまだ研修を積み重ねなければならない授業づくりのポイントがあり、今後も発展的な研修が必要。昨年度に引き続き、授業研究会の充実をはかる。昨年度に引き続き、「ひとり授業」の継続と公開授業、外部講師の招聘の機会を増やしていく。</p>	<p><b>○「特別の教科道徳」の研究を通して、豊かな人間性を育む道徳教育の推進を目指す</b></p> <p>○学校評価、児童アンケートにおいて、道徳授業に関する項目において、肯定的評価90%以上を目指す</p> <p>※87%(児童)97%(職員)</p>	<p>道徳的価値への意識の向上と学びを日常生活と結びつけられる教育活動の実践</p> <p>◆道徳の授業を核として学校全体の道徳教育の推進計画を策定する</p> <p>課題教育に対しての校内研修の充実</p> <p>◆人材教育・特別支援教育・特別活動・キャリア教育・情報教育(プログラミング教育)</p>			
<p><b>校 内 研 修 の 状 況</b></p> <p>○人権研修、特別活動、特別支援教育、国際理解教育などの校内研修会を定期的に行っているが、学年や単元に応じてまだまだ研修を積み重ねなければならない授業づくりのポイントがあり、今後も発展的な研修が必要。昨年度に引き続き、授業研究会の充実をはかる。昨年度に引き続き、「ひとり授業」の継続と公開授業、外部講師の招聘の機会を増やしていく。</p>	<p><b>○地域、家庭、学校の連携の充実を目指す</b></p> <p>○学校評価、保護者アンケートの地域連携に関する項目での肯定的評価70%以上を目指す。</p> <p>※86%(保護者)91%(児童)</p>	<p>地域連携の充実</p> <p>ア)学校地域連携協議会の計画的な実施と外部評価の活用</p> <p>イ)地域の教育者が学校支援ボランティアの積極的な活用</p> <p>ウ)地域、家庭への情報発信(HP)の定期的な更新、学年通信の配信等)</p>			
<p><b>家 庭 ・ 校 種 間 連 携</b></p> <p>○学校通信、学年通信を定期的(HP)に掲載し、QRコードを簡単に確認できるようにするなど、積極的な情報発信に努めた。</p> <p>○地域ボランティア担当を中心として、地域コーディネーターとの連携をかり、歴史学習や、地域の自然や文化についての学習、読み聞かせや放課後学習などの基礎学力の定着を図る場において、多くの学校支援ボランティアや地域のグランドティーチャーを活用することができた。</p> <p>○学力・学習状況調査や学校評価の共通項目における結果について、八景中学校区で合同分析を行い、小・中課題を共有することを通して、基礎学力や学習習慣の定着を図った。</p> <p>○八景中学校区で共通して指導すべき学習規律(「学びのスタンダード」)を明確にし、指導の徹底を図った。</p> <p>○目標に向かって粘り強く取り組む心身の育成にむけ、「わかると「読書」「自主学習」において、各校共通のチャレンジ目標を設定したり、家庭学習の取り組み方や内容を「学習の手引き」としてまとめた。共通した指導を行った。した。</p> <p>○「中一〜中三」(ア)スラムの取り組みや「中一〜中三」(イ)長期のスタンプで児童の成長を支援していたために、小・中間の連携を強化してだけでなく、保幼小中高のみならずな接続を図るために、校種間交流活動を充実させる必要がある。</p> <p>○外国語専科を主軸として、中学入学者の入門期外国語科においてスムーズなスタートを切ることができるよう指導していくとともに、今後も引き続き、保幼小中高連携体制の確立を図る。</p>	<p><b>○八景中学校区の小中連携の充実を図る</b></p> <p>○学校評価、保護者アンケートの苦手なことに関する項目での肯定的評価90%以上を目指す。</p> <p>※87%(保護者)92%(児童)</p>	<p>八景中学校区「学びのスタンダード」の徹底</p> <p>エ)学習規律の徹底</p> <p>目標に向かって粘り強く取り組む心身の育成</p> <p>オ)進ん「自學、とどろく讀書」、元氣「運動」</p> <p>ウ)児童が主体的に取り組む、つながりを感じられる特別活動の充実</p> <p>◆目標をもって学習に取り組む機会の設定</p> <p>ウ)家庭との連携</p> <p>保幼小中高交流を計画的に行い、校種間の円滑な接続を図る。</p>			